

第4回乙川リバーフロント部会議事録

日時 2013年9月24日(火) 14:00~16:00

会場 岡崎市役所福祉会館3階視聴覚室

1. 開会

2. 部会長あいさつ

今回で4回目となるが、少しづつ方向性を見出したい。先日の堀先生の講演会(※1)参加者はいますか?(庁内検討会含め参加者多数)示唆に富む良い話だった。議題の前にいくつか紹介したい

(1. 部会員Aから事例紹介) トリエンナーレ・シビコ会場にビートたけし氏来場しアートの可能性についてコメント「衰退する場所(シビコ)に新しいもの(アート)が入るといろんな世代の人が集まることが面白い」。

(2. 事務局から事例紹介) 岡崎のまちづくりにおいて資産になりうるものを取り上げる「おかざき景観賞」、愛知県立芸大の水津先生講義等の「景観まちづくりシンポジウム」実施。

(3. 事務局長から事例紹介) 「森、道、市場」、りた担当で実施予定。河川敷活用の社会実験と位置付けている。

3. 現状分析

- ① ソフト資産の現状と評価
- ② 岡崎公園、乙川、道路等植生の現状と課題
- ③ 周辺道路の利便性の状況及び改善の必要性
- ④ 観光資源や商店街の現状評価と可能性
- ⑤ 過去の代表的なハード整備事業について

以上について事務局から資料通読。

4. 課題と資源の抽出

- ① 過去のまちづくり活動での提案の整理
- ② 活用すべき資源・資産の整理
- ③ リバーフロントおよびその周辺地域に関わる課題/重要度

部会長

資料について、直近のデータがほしい。また今後はRF研究所としての主体的な意見、提案もほしい。

事務局

(駐車場等一定の期間で集計しているものは除き、) 資料は極力最新のものを挙げるよう心掛けている。

部会員B

資料多いが、数字とかは行政に任せて、外から岡崎へ来た友人に応えるものを提供できるかどうか。岡崎が一番であることが忘れられている。平山城としての例は「岡崎が最初」。日本史の大石先生の著作にある(※2)。岡崎の町が「最初の城下町」ということを外向きに話してもいい。データは変わっていくもの。どうしたら岡崎が外から愛されるまちになるか? 市民がどうおもてなしできるか? というソフトから議論に入った方がよい。

事務局長

駐車場の管理は都市計画課、対外的に見た駐車場、調査の視点重要。資料P34確認、「占有許可」は河川管理者である県が出す。潜水橋のゴミは市が借りているから市が除去する。

部会長

昨今の異常気象・温暖化が進む中でリバーフロントをどう位置付けるかが重要。東京オリンピックでは神宮の森がなくなる可能性があると聞く。どの視点でホスピタリティを確保するか。「利他の精神」、「サービス」等いろんな視点からの手法、岡崎の資源を有効に使いながら、また改めながら岡崎らしきを出すことを考えていきたい。

5. 意見交換 (参考: 事前アンケート)

事務局長

事前アンケート提出御礼。以降「キーワード抽出」に沿って進行。

①岡崎市に必要なことは?

【アンケート抽出結果からソフト面について討議】

事務局長

まず将来ビジョン、ブランド力、市民力向上などの言葉が並びますが、この中で岡崎市のビジョンが言える方は?

部会員B

全体の話もいいが、大事なのは市民。私に関わってきた商店街の活性化において1番大事なのは店主の意識。やる気。

部会長

市民力、共有認識を立ち上げるのが大事。

部会員B

簡単なキャッチコピーを繰り返すのが大事。川が大事にされず汚い時代から城下町であり(舟運の)港町である。明代橋の松は船着き場。川を中心に生活があった。国道一号線は芝居小屋があった。過去を検証し川でどうやったら楽しんでもらえるかを考

え、理想から入るのも必要。

事務局長

積み上げ型先行、ビジョン先行、乙川に関してはどちらを選ぶのか決めなくてはならず、また決めたらやる覚悟もいる。岡崎の市民の力という点で、岡崎の市民力の中心になっている、天野さん如何ですか？

副部長

ビジョンを持つ市民は稀で、人が何かをするのは身近なことから。それをビジョンとつなげる役割が必要で、それが我々のようなものかと思う。一昨日実施した松本町でのイベントは 2,500 人の集客。昭和な景観＝地元は「ボロいまち」という認識だが、栄えた町が廃れるのは寂しい。地元が「賑わいを取り戻す」ビジョンに共感してもらえた。抽象的でなく身近なことで動く。

部会員

「人、水、緑が輝く…」はどここの市にもあるただの言葉だ。ビジョンではない。例えば「日本初の平山城、城下町」のように具体的で市民が誇りに思えるものであるべき。

事務局長

具体的に見えるもの、事業、イベントなどそれらに参加していくことで市民の意識が変わっていくと思う。それを「リバーシブル」が表現している。ご意見を。

部会員

事業者がオカザえもんに乗っかる理由はRF研究所が示した「面白いから」ではなく、「タダだから」。今から著作権料発生すると言ったら誰もやらない。作者へロイヤリティが入る商品のフィギュア¥35,000は3店（小野印房、いずみや、TOPJIMMY）しか購入されないのがその証明。まちのために動くということはない。「JOY OF LIFE」ではないが、「よりよく生きる」ことをそれぞれの立場で、好きなことをお互いに懐深く受け入れる体質を作っていくのが大切。オカザえもんに乗った店のような取組を、もう一歩進めたい。

事務局長

乙川リバーフロントはいろんな人が活動するステージ。岡崎にしかないステージにしたい。これまでのソフト系のキーワードとご意見は整理して大きな方針に反映していきたい。

次に【ハード系】。いくつか挙げられているが進行中、計画中、中断中のものがある。整理して情報共有していきたい。

意識、価値観等は皆さんの意識が変わることも重要。

②乙川RFエリアの役割とは

事務局長

キーワードは「岡崎を代表する場所」、「人が集まる場所」、「人を大切に作る場所」

等。ここには桜まつり、夏まつり等多くのイベントが集中している。その中でどのような課題があるか検証されていない。行政側は課の枠を超えて課題解決を。

部会員A

(資料配布) 全体としてまちは人がいないと面白くない～どうしたら人が歩くか。車では歩かない。東岡崎駅から歩いて康生へ引き込むストーリーを考えてはどうか？例えば歩道のデザインやおもてなしを集中化、休憩スペースや街歩きガイドを作るといったことを、時間をかけて積み重ねてストーリーにしていくことで、通りからまちへ展開される。

部会員E

社長として、目の前のゴミを拾うことからやっている。団体バスは少ないが、個人見学者は増えた。注意としては物売りに徹していない。最近行った旭川やバンクーバーなどと比べても岡崎はいいまち。自社で草取りをしていると周辺は気にしてくれる。一個人、一企業として人の荷物にならないよう心掛けている。取材を受ける時も「岡崎」「八丁味噌」の話をしている。「もう一度来たい」という視点で取り組みたい。

事務局長

このエリアの観光地、宿泊地としての役割はどうか？

部会員H

お客様から「ホテルからの川の眺めは素晴らしい」と言われることがある。もっと全国にPRできれば良いと思う。一方、他の市などに比べて「家康の奉られ方がチープな気がする」とも聞く。そのあたり岡崎は商売下手。ネームバリューを前面に出しうまくアプローチできないかと思う。

部会員D

観光＝非日常、生活＝日常。開発には二面性が伴うが、非日常の演出にはテーマ、コンセプトが重要。観光は地元の誇りとプレイヤーが大事で、ここに評価をいただきたい。これがコンテンツにつながる。岡崎で徳川家康を推すなら、例えば川に大きな家康像があっても良い。ランドマークに結びつくコンテンツがあれば良い(ex.「岡崎には家康について100のコンテンツがあります」)。外人が甲冑を着て散策するルートがあっても良い。そのためにはおもてなしをする人と場所が要る。ソフトとハードはある程度分けて考えてもらいたい。

部会員B

家康は世界から集客可能か？(部会員D「可能性有」)80年代から欧米を中心に江戸時代の再評価が進んでいることを岡崎市民に学び直してもらい、家康の魅力を世界に分かるように切り口を新しく発信することが必要では？今風な「パワースポット」でも良い。

事務局長

例えば「坂谷邸がパワースポットだ」と発信する担い手は？ここにいる私たちでは？

部会長

折角なので傍聴の方などからもご意見をいただきたい。

傍聴者

皆さん堀先生の話聞いた上で、自分の提案はありますか？私ならまず「掃除」。桜、景観保護、野鳥保護など目的を決めて、自分の部屋を掃除するように人を呼びたいところをきれいにする。桜なら「家康のお膝元の桜」として日本一になれる可能性はある。桜を見に来る人いい桜を残し雑木、松や外来種などを整理し、遊歩道を整備したい。

アドバイザーA

対象は市民？市外？リバーフロントだけで外からの誘客は無理。まずここに快適な空間を作ること（岡崎城や商店街と関連付けて）来訪のハードルが下がる。名古屋からの電車賃1000円が1500円になっても景観が良いから来たいという人が増えれば効果がある。市民と観光客にとって楽しい空間を作ることが目的。その上で本丸である商店街にお客さんを引っ張ってお金を落としてもらうかは民間の範囲としての役割分担かなと思う。一方遊歩道の整備とか行政がやらなくてはならないことは行政が行う。河川管理者との協議は市でできる。皆さんと一緒に市も責も負うし、支援もできる。やりたいことを気楽にどんどん挙げてほしい。やる気のある人からの提案には応えたい。

部会員B

岡崎市としては「税収の上がるまち」が良いと思う。

③乙川リバーフロントの整備の方向性

事務局長

交通、景観、活用、運営について。 アンケートにある「活発な意見交換のために小委員会設置」について、実施してはどうか？

部会長

即断はできないが、市の方を含めてこれだけの方が集まっている中で、次年度もこの会議形式をとりながらも、部会で吸収しきれない意見をアンケートで聞くスタイルではいかがか？皆さんにも諮りたい。

事務局

（小委員会という）ご意見もさることながら、幅広い議論になっている中で「市民力」「市民が活躍」心強い。一方副市長が言う行政の役割分担もある。皆さんがやりたいことを下支えする行政がやるべきこと。東岡崎から岡崎公園までの河川空間で）方針についてあと二回の部会の中で議論をしていただきたい。

アドバイザーA

部会でまとめて議論を集約していくのであれば、まずは河川敷空間に絞って議論いた

だければと思う。

事務局長

行政と民間の役割分担をする一方、お互いで（R F 研究所も含めて）共通の情報、認識を持ちたい。

部会長

専門集団であるR F 研究所の役割について、部会から積極的にお願いしていきたい。

アドバイザー

アンケートのキーワード、具体論としてはつかみづらい表現もある。全国で川を使ったまちづくり、サービスを施策、事業に落とし込んで次回提出したい。

事務局長

アンケートの最後に具体案が挙げられている。

部会員F

もと福祉部としては、元気な高齢者のため「健康づくり」の場所にしたい。河川敷をジョギング、ウォーキングコースに。現状行き止まりがある。もっと長い距離を取っているんな人が活用できるようにしたい。

先週の名鉄ウォーキング約 3,000 人参加。本多邸入場者は 1,000 人超。参加者はどんな感想を持ったか聞いてみたい。商店街でなく河川敷を見てもらってもいいのではと思う。

事務局長

次回に向かって、多くの方から意見をいただきたい。参考までに川からの風景をご覧いただきたい（伊賀川・乙川合流地点から潜水橋、殿橋等）。堀先生から「河川敷に座る場所がない」という話があったが、段差はある。また水質は吹矢橋あたりでは透明度高い。

副部会長

あいちトリエンナーレの一環で「みちくさ案内図」作成。会場の中の街並みを紹介する目的でR F とも重なるので参考に。岡崎の魅力は多いがマニアック。一人では気づけないが面白い人と回れば価値がわかる。人に喜んでもらえることは自分のまちの誇り、自信になると思う。

もう一つ「百人百景」実施、写真を旧セルビ工事外壁にて公開中。一般の人がどういうところに面白味を感じるか分かる。

部会長

市民力アップという意味で、未来を担う子供たちの意見を吸い上げる企画、コンクールのようなものは企画されていたが、その後どうか？

事務局

現在「乙川リバーフロントアイデアコンクール」と題して実施予定。今年度補正予算に計上済、現在の市議会にて可決の見通し。活性化本部と実施に向けて打ち合わせを

進めています。

事務局長

それに先立ち、9/27（金）、市民会館において生徒会連絡協議会と活性化本部で会合を持ち、岡崎の未来を含め中学生の意見をお聞かせいただくよう調整している。

6. 閉会

■次回部会等開催日時・会場案内

第2回乙川リバーフロント懇談会

日時 2013年10月22日（火）14:00～16:00 会場 岡崎市役所福社会館6階大ホール

第5回乙川リバーフロント部会

日時 2013年12月18日（水）14:00～16:00 会場 岡崎市役所福社会館3階視聴覚室

以上

- ※1 2013年9月14日（土）岡崎市主催「乙川リバーフロント講演会」
演題「地域資源を活かした活性化のまちづくり」
講師 東京大学アジア生物資源環境研修センター長／教授 堀繁氏

- ※2 出典不明